

## 防災・日本再生シンポジウム「南海トラフ巨大地震に備える～東三河地区の防災力向上に向けて～」

日時:2013年12月12日(日)13:00～17:30

場所:穂の国とよはし芸術劇場「プラット」アートスペース

(豊橋市西小田原町123番地)

主催:豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンター

共催:一般社団法人国立大学協会、東海圏減災研究コンソーシアム

後援:国土交通省中部地方整備局、経済産業省中部経済産業局、豊橋市、蒲郡地区委員会防災部会、御津臨海企業懇話会、明海地区防災連絡協議会、神野地区防災自治会、田原臨海企業懇話会、東三建設業協会、自然災害研究協議会中部地区部会、環境共生技術研究会

趣旨:

安全安心地域共創リサーチセンターでは、東三河地域の企業・自治体等において災害時に活躍できる防災の担い手の育成を通じた地域防災力の向上に取り組んでいます。本シンポジウムでは、地域防災力の向上に長年取り組まれた専門家の話を伺うとともに、東日本大震災における成功事例や教訓、東三河地域の現在の取り組みについても紹介し、近い将来に発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備え、東三河地域の防災力を効果的に向上させる方策について、パネルディスカッション等において議論します。

報告:

安全安心地域共創リサーチセンターが主催するシンポジウム「南海トラフ巨大地震に備える～東三河地区の防災力向上に向けて～」が、12月12日に豊橋市の穂の国とよはし芸術劇場「プラット」において開催され、約150名の参加者がありました。開会にあたり、豊橋技術科学大学・榊佳之学長より挨拶がなされました。また、安全安心地域共創リサーチセンター・斉藤大樹センター長より、センターの概要や地震防災に関わる人材養成コースの開設などについて説明がなされました。



基調講演 久田氏



会場の様子(話題提供 田代氏)

基調講演では、久田嘉章教授により、「地域特性に応じた地域連携による震災対策」と題して講演がなされ、過去の震災から学ぶべき点、この地域で想定される地震と被害想定、地域連携による震災対策の重要性について指摘されました。引き続き、3の講演者から話題提供を頂きました。田代邦幸氏は、企業におけるBCM(事業継続マネジメント)の実践例について講演して頂き、ビジネスに必要な経営資源を確保する戦略を予め考えることの重要性を指摘されました。金子鴻一氏は、明海地区のBCPの事例について講演して頂き、企業間連携BCPの構築の要件やその重要性を指摘されました。遠山繁氏は、御津臨海地区の取り組みについて講演して頂き、企業懇話会を中心とした活動の重要性を指摘されました。



パネルディスカッション



質疑応答

増田幸宏副センター長の進行で行われたパネルディスカッションでは、地域防災力の向上に向けて何が必要か、誰がどのような役割を果たすべきか、地域が連携することでどのように強くなる事が出来るのかについて活発な議論が交わされました。地域特性に応じて多様なハザードを考慮した対策・対応を考える必要性について、大企業だけではなく中小企業も含めた対策の必要性について、地域連携BCPのあり方について、組織間の合意形成や組織内の意思決定などについて議論がなされ、こ

れからの東三河地域の防災力向上に向けてのいくつかの重要な方向性を共有することができました。

シンポジウム終了後には、会場入口のホワイエにおいて意見交換会が開催されました。



意見交換会